「7 月度研修会/先端研」報告書

修習技術者支援実行委員会　委員補佐
笠松　功　　修習技術者(農業部門)

１．研修会概要

日　時　平成 26 年 7 月 12 日（土）
13:00～19:00
主　催　公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会　場　日本技術士会葺手第二ビル 5 階
(Web 中継:日本技術士会中国本部)
基本課題:資質向上講座
テーマ:社会へのアクセス能力
副題:技術者の持つ技術と社会の関係

２．研修会の内容

開会挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長	13:00～13:05 神下　栄
講演①　「技術者(士)としての社会との接点を考える」 ※グループ討議を含む 一般財団法人　日本気象協会 技術士(建設・総監)	13:05～15:50 丹治　和博氏
講演②　「技術動向の情報収集と把握及び情報の共有方法」 ㈱　ゆたか技術士事務所 技術士　(衛生工学・総監)	16:00～16:50 加藤　豊氏
情報交流会(懇親会)	17:00～19:00

３．研修会の参加者

研修会の参加者は 33 名であり、研修会課題が「資質向上講座」であったためか、様々な部門及び年齢構成であった。参加したきっかけを図-1、参加動機を図-2 に示す。
(複数回答あり)

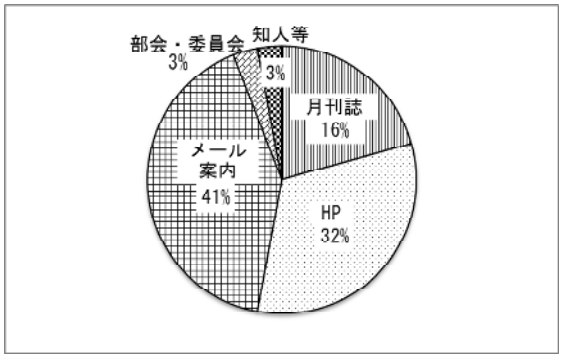

図-1　参加したきっかけ

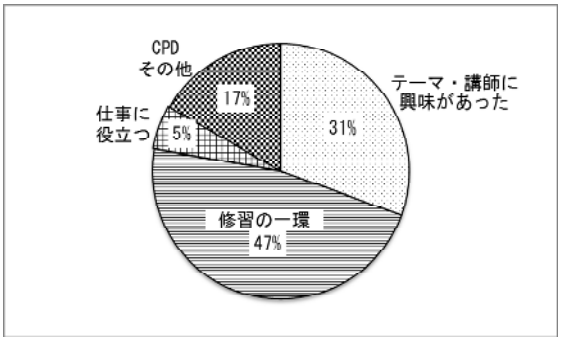

図-2　参加動機

４．研修会状況について

当月の研修会課題は、「資質向上講座」であり、テーマは「社会へのアクセス能力」であった。

社会の動向を把握し、日々の業務を円滑に行うために欠かせない能力を身に付ける時間となった。

写真 1:研修会の状況

◆　講演①について

丹治氏の講演は、技術者(士)としての社会との接点についてであった。

技術者はおよそ 20 年前までは、自身の専門分野における、専門家であることを求められていた。

しかしながら、今日の技術者は専門性だけではなく、社会性が求められる様になってきた。丹治氏は公益社団法人日本技術士会が定めた、『技術士倫理綱領』と『技術士プロフェッション宣言』を示し、技術士のステークホルダーズの例を挙げ、情報収集及び発信能力の重要性を説かれた。

グループ討議では 5 グループ(1 グループ 6～7 名)に分かれ、特定の技術者(士)を想定

し、ステークホルダーズに対する関わり方・活動・行動等について、20 分の討議を行った。討議の最後には、討議結内容を模造紙に図示し、1 グループ 10 分のプレゼンテーションを行った。そして、他の参加者及び丹治氏との質疑応答を行った。

グループ討議後は、丹治氏が北海道勤務時代に行った、社会への情報発信及び貢献活動の事例が示された。事例を通し、技術者(士)は自己研鑽だけではなく、社会の動向に耳を傾け他分野と関わり、次世代を見通す必要性を丹治氏は講演を通じて説かれた。

写真 2:グループ討議の状況

写真 3:プレゼンテーションの状況

♦ 講演②について

加藤氏の講演は、技術動向の情報収集と把握及び情報の共有方法についてであった。

修習技術者も技術士と同様に、先端技術の動向を把握して、常に進化する必要があり、個人の技術水準と社会における水準との差を認識し、先端技術及び技術動向を習得する必要もあると説かれた。

技術動向の情報収集は、技術者自身の専門分野の学協会や行政機関等において、印刷物や Web で公開されている資料により、行うことが出来ると示された。

最後に加藤氏は、技術者は自身の専門分野を明示することにより、情報が入ってくることを示された。

写真 4:加藤氏の講演

５．情報交流会

研修会終了後に情報交流会を行った。講師の丹治氏と加藤氏も参加し、部門を超えた交流により、明るく有意義な時間となった。

以上